

令和4年2月17日

摂津市立千里丘小学校  
校長 撰田 裕美 様

千里丘小学校学校協議会  
会長 中田 康之

## 今後の千里丘小学校の運営についての提言

今年度実施された「学校教育自己診断アンケート」の結果概要・分析結果、及びそれをもとにした千里丘小学校の自己評価を踏まえ、貴校の今後の学校運営についての提言を以下のとおりまとめましたので、お伝えします。

### 記

本協議会において、千里丘小学校（以下、学校）は常に学校の現状と課題を情報開示し、積極的に広く意見を求めた上で解決しようとする姿勢を保ってきました。今年度の本協議会の開催回数は5回を超え、委員を今年度は10名に増員するなど、会議の充実に努められました。また、毎回の会議要点録を学校ホームページ（以下、HP）上で公開されるとともに、国語科の授業や児童の集団づくりについて、研究してこられたことの成果を研究発表会の開催という形で広く発信されました。

「安全で安心できる学校」「確かな学力と体力を育む学校」「信頼される学校」をめざしておられる千里丘小学校ですが、それらの実現のためには学校組織の強化が必要です。そのためには、常に自らの検証が必要ですが、同時に外部からの評価に真摯に耳を傾けなければなりません。発信だけでなく、受信にも努めようとしておられる現在の学校の姿勢を、今後も持続させて欲しいと願っています。

学校の教職員が組織的に、児童の「生きる力」を育み、地域とともに歩む持続可能な学校をつくるために、今年度の貴校の「めざす学校像」にそって、本協議会より提言いたします。

### 1. 安全で安心できる学校づくりについて

確かな学びを育むためには、児童にとって学校が安全で安心できる場所であることが必要不可欠です。新型コロナウイルス感染症の影響もある中、誰もが安心できる教室であるために、教室環境づくりと人権教育の両面からの取組みを学校全体で進めてこられていることは一定評価できます。ユニバーサルデザインを取り入れた教室環境づくりとしては、教室掲示、とりわけ教室前方は必要最低限の掲示物にしぼるなど、全校で一致した取組みを進めていました。一日のスケジュールを分かりやすく掲示することで見通しを持たせやすくする工夫をする一方で、「あいさつをしよう」などの必要なメッセージは端的かつ効果的に掲示するなど、その徹底ぶりが伺えました。今年度めざしてこられた“般化”の取組みも含め、『個に応じた適切な指導』が進んでいると考えられます。

また、定期的実施するアンケートを活用し、いじめの未然防止や早期発見に取り組んだり、学級の『安心ルール』づくりや『もちあじ』を大切に人権感覚を育む取組みを進めてこられたりしました。学校教育自己診断アンケート（以下、アンケート）での、学校の居場所づくりに係る評価が児童、保護者ともに肯定的な回答の割合が高

いポイントを示すことから、これらの取組みの成果が見えると考えられます。

しかし、一方で相談体制については児童と教員との間の意識の違いが、アンケートによって明らかにされました。「教員は子供の意見をよく聞いている」と教職員の9割が肯定的に回答しているのに対し、およそ4分の1の児童が「学校で悩みを相談できる先生がいない」と回答しています。この点については、その背景、要因をもっと探り、真摯に向き合う必要があると考えます。

また、「学校が楽しいですか?」という質問に対し、1割強の児童が否定的回答をしていることについて、もう少し危機感を抱くべきだととらえています。全ての児童にとって楽しい学校であるために、児童と教職員との関係の再構築の必要性も視野に、現状から課題意識を持っていただきたいと考えます。

教職員の育成に関わっては、大変評価し辛く、指標の設定については難しいところです。中堅層の力量向上について悩んでおりましたが、「組織で取り組むことの理解が進んでいない」というより、「組織で取り組むことの効果が分かっていない」ことに一因があるように思います。今後、組織的に動くことの有用性についての研修の実施を望みます。しかし、全く成果がなかったとも思いません。経験の浅い教職員の底上げができていないことは大きな成果ではないでしょうか。仲間づくりによせ授業づくりによせ、「教員が根底に何を大事にしているか」「教員同士で共通したねらいが持てているか」を大切に、今後も取組みの推進を求めます。

## **2. 確かな学力と体力を育む学校づくりについて**

全国学力・学習状況調査や摂津市学力定着度調査において、その平均正答率が依然高い水準を保っていることは素晴らしいことです。3年前から取り組んでいる国語科での説明文の研究を中心に、授業改善に取り組んでこられた成果が表れていると考えられます。得点率の分布図からも二極化は顕著には見られず、児童の学力が着実に積み上げられていることが伺えます。安全・安心の学習環境づくりによって、児童が日々落ち着いて学びに向かえるという状況も、学力の定着・向上につながっているのではないのでしょうか。今後も全ての児童のために、取組みを継続されることを強く望みます。

ただ、平均正答率ばかりに注目するのは危険です。大切なことは、目標に達していない児童に適切に焦点を当て、どうアプローチを進めていくかということです。『将来の夢を持っている』と答える児童が少ないことが課題であるならば、誰もが主体的に学べ、自尊感情が向上できるよう、学力の課題に向き合っていただくことを望みます。

本年度、学校が力を入れている体力づくりは、素晴らしい取組みです。学力とともに体力は、児童が生きていくうえで欠かせない力です。新型コロナウイルス感染症の影響で児童の運動機会が激減しているという状況において、今年度から進めている新たな形の『千小っ子運動タイム』や、外部有識者を招致しての体育科の授業改善の取組みは、児童の体力向上にとっても有効だと感じました。また、『千小っ子運動タイム』における高学年の委員活動は、児童間の絆や上級生としての自己有用感を育むことに大きくつながっているのではないのでしょうか。

一方で、アンケートにおいて「千小っ子運動タイムは楽しい」の項目に対して、肯定的に回答した6年生児童の割合は低くなっていましたが、「千小っ子運動タイム」や体育の授業を参観した中では6年生も楽しそうに取り組んでいる様子が伺えました。千小っ子運動タイムを通して、運動が身近なものになるなど、効果を感じます。6年生のアンケートの肯定的回答の低さについては、発達段階的な要因や肥満傾向などの要因となど絡めながら次年度以降のアンケートで動向を見守り、分析結果を今後の取組みに活かせるようにしてはどうかと考えます。

今後も、児童たちの「生きる力」を育むべく、系統的で組織的な取組みの推進を強く望みます。

### 3. 信頼される学校づくりについて

学校が力を入れている情報発信については、HP の活用や学校だよりの紙面の工夫など、努力の跡が伺えます。とりわけ、昨年度課題とされていた HP での発信については、更新頻度が向上するなど少しずつ改善が見られ、保護者対象のアンケートでも肯定率が上昇していることから一定の成果が出ていると考えます。しかし、大切なことは、発信の頻度・回数ではなく、誰をターゲットに、どんなメッセージを伝えるかです。そのためにも、発信はリアルタイムで、またこれから学校が何をしようとするのかがよくわかるものである必要があります。今後も、「また見たくなる」発信に努めていただくようお願いします。

地域からの講師を積極的に招致して学習を進めていることも素晴らしいことです。これらの取り組みは、地域とのつながりを深めるとともに、生きた声を届けることを通して、児童が地域で生きる喜びを実感できるという、深い学びにつながります。これからも地域を十分意識した教育課程の編成を行うことを要望します。

また、この学校協議会の開催も含め、学校の「地域の中の学校」を作ろうとしている姿勢は評価できます。本協議会で話し合った内容を教職員に提示し、共有しているとお聞きしました。協議会で行っている協議の内容が学校運営に活かされ、我々の声が学校の力になっていることを嬉しく思います。

今、新町の開発に伴って大きくなろうとしている千里丘の街は、過渡期を迎えようとしています。価値観や地域性が多様化していくことが予想される状況下で、学校を中心としたつながりの構築は大きな使命となります。コロナ禍で滞りがちだった PTA の活動も、少しずつ活動を再開していると聞いています。PTA を通じた地域とのつながりは大きな力になると感じています。「子どもの味方」となる民生委員（児童委員）、青少年指導員、自治会など、地域の人材とつながっていくことで「開かれた学校づくり」が実現し、地域が学校の力になることでしよう。今後より一層、地域との連携構築に努めていかれますよう、お願いいたします。

千里丘小学校は地域から愛されている学校です。児童の学力の高さや素直さ、保護者からの協力の得やすさ、地域とのつながりなど、多くの強みがあります。新型コロナウイルス感染症の拡大に伴ってつながりが希薄になりがちではありますが、千里丘小学校区の教育活動の充実を、学校協議会としてもさらに応援したいと考えています。どうか、校長はじめ教職員のみなさん、今後も児童のためによりよい学校づくりをめざし、教育活動に励んでいただくようよろしくお願いいたします。